

つまずかない信仰(ルカ 7:18-28)

信仰生活を始めたけれども、途中で落胆してしまう人、また途中で教会から離れてしまう人たちがいます。場合によっては一生懸命伝道をしていましたが、途中であきらめた人たちもいます。それを聖書の言葉で申し上げますと、信仰につまずいたと言うわけです。今日の聖書を見ますと、バプテスマのヨハネがイエス様につまずいた様子が紹介されています。ご存知のようにバプテスマのヨハネは、イエス様が来られる道を備えるために、その立派な仕事のために神様に用いられた人です。しかし残念ながら、ユダヤ人の中にあるメシヤたい待望思想というものをそのまま持っていたわけです。イスラエルの国は長い間、外部からやられっぱなしの歴史をたどっていました。そこでイスラエルの人なら誰でもその心の中に、メシヤが来られてこの国を助けて、敵の国を潰して、この国は新しく建て直すようになるんだという思想を自然に持つことになりました。バプテスマのヨハネは、キリストが来られる道を備える尊い働きに用いられたにもかかわらず、内側のキリストに対しての思想はそのような思想のままでした。なので、それに見合ったイエス様の働きがなかなか見えないので、いつローマの軍隊を潰して白馬に乗って戦車に乗ってイスラエルの国の王としてやってこれるのかということを期待しているのに、今日の聖書に書いてある通りに、病人を癒して悪霊を追い出したりということばかりしているので、本当にキリストに間違いないのかという疑いが生じることになりました。それで弟子 2 人をイエス様の方に送って、「あなたが本当にキリストに間違いないのでしょうか。でなければ、本物のキリストを私たちは別に待つべきでしょうか」と尋ねたわけです。そこでイエス様は「バプテスマのヨハネは預言者の中で一番優れたものなんだ。しかし、神の国では一番小さい者もそのヨハネよりは上なんだよ」と。バプテスマのヨハネはキリストのために用いられたにもかかわらず、キリストに飛び込んで、キリストと一緒にになって、キリストで満足して、キリストとともに歩む神の国には入ることができないままの状態でした。それでつまずくようになるわけです。自分の願い、自分の思想、自分の願望がそのまで、それに見合ったもの、それが叶えられるかどうかを基準にしていつもイエス様のことを、またイエス様の働きを見ているので、そうでない場合にはつまずくようになるわけです。そのことを通して、私たちはつまずかない信仰になるためにはどうすればよいのか、何が必要なのかということを今日のメッセージを通して与えられたい、教えられたいと願います。それはいうまでもありません。

1. キリストを正しく知る信仰

第一につまずかない信仰者になるためには、キリストを正しく知る信仰を持たなければなりません。バプテスマのヨハネはキリストのために用いられたにもかかわらず、キリストを未だに正しく分かっていないわけです。キリストを正しく知るということはどういうことなのでしょうか。

1) 人間(自分)の絶望的靈的問題

それは人間の絶望的な靈的な問題を知り、それを認めるかどうかなのです。人間といったときに、ぼやつとした概念ではありません。その人間が私、自分自身なので、自分の絶望的な靈的な問題、その状態を知り、素直に心から認めるかどうかによってキリストを正しく知ることができるわけです。私はそういう人間だと夢にも思っていなかったでしょうけれども、キリストの前で神様を離れて滅びた者なのです。神様を離れた結果、自分の意志とは全く関係なく、あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者である、悪魔の子という絶望的な身分を持つことになった存在です。自分が何をどうしたかと全く関係なく、それ以前に生まれながら神の御怒りを受けるしかない滅びの子であることを認めるかどうかなのです。自分がどれほど悪ふざけをしていたのか、どれほどそうしないで頑張って真面目に生きてきたのか、そういうこととは全く関係ありません。教会に通いながらも自分のことをいつまで経ってもそういう目で見ているので、バプテスマのヨハネのようにキリストにつまずくようになるわけです。聖書が教えている通りに、私は生まれながら神を知らないで神を離れて生まれてしまつて、生まれた時から悪魔の子だったということがなかなか認められないのでしょうか。教会に 20 年、30 年通っていて、聖書を 100 回読んだとしても、キリストを知ることはできません。キリストを知るということはそういうことなのです。自分の絶望的な靈的な問題を認めていないとどうなるのでしょうか。

2) 願い成就(問題解決)のためのキリスト

クリスチヤンと言いながらも、教会に通いながらも、自分の願いがそのまま生きていて、その願い成就のためのキリストに留まるわけです。願いの中にはさまざまことはあるでしょうけれども、別の言葉で言うと、何かしらの問題解決のための道具としてのキリストに留まるわけです。それはもはやキリスト教ではありません。宗教なのです。なぜ皆さんは礼拝に来られてお祈りを捧げているのでしょうか。皆さんの願いは何でしょうか。どういう願いを持って礼拝に来られるのでしょうか。だから礼拝に来て礼拝に参加したにもかかわらず礼拝になりません。礼拝は自分の願い、自分自身が死んで、キリストによって私は救われた。その救いの感謝をもって救いの神を見上げることが礼拝なのです。なのに、何かしら問題の解決をずっと頭に入れておいて、自分の願いを強く携えて、そのためにということで礼拝に来ると礼拝になりません。動機があって病気が治りたいという気持ちは充分わかります。病気が治れば良いのでしょうか。絶望的な靈的問題がまだ分かっていないではないでしょうか。病気が治るかといって、その問題が改善されるわけではありません。金持になりたいのでしょうか。成功したいのでしょうか。成績が上に上がりたいのでしょうか。平和な家庭になりたいのでしょうか。悪い願いではありませんが、なぜそういう願いを持つのでしょうか。もしかしたらそういったことでは1mmたりとも解決にならない、答えにならない絶望的な靈的問題についてまだ分かっていないからではないでしょうか。となると話は深刻なことになります。病気が治ることを願うことは悪いことではありません。しかし、それがもしそういうことの所以であれば、暗闇の勢力はそこで働くようになるわけです。キリストが消えてしまうので。キリストを正しく知る信仰でなければ、結局つまずくようになります。何につまずくのでしょうか。自分の願いがその通りに叶えられるかどうかがいつも基準なので、それによって叶えられたように見えたときには happy、そうでないときはう~ん...になってつまずくわけです。バプテスマのヨハネの心の中には、いつ今まで苦しんでいたこのイスラエルの歴史が全部ひっくり返されて、イスラエルはいつ独立して、今まで私の国を苦しめていた敵の国はいつ滅ぼされるのか、そういうことばかりだったのです。その願い通りに叶わないので「なにこれ?」になるのです。それがつまずくということです。何も人間的な願いがない場合は、つまずく要素も材料も何もないのではないでしょうか。結局、自分の願い、肉体的な願いがあるまま、問題解決というテーマを持っているままキリストに近づくのでつまずくようになるのです。宗教と何も変わりません。神社に行くこととお寺に行くことと何かに拝むことと中身は同じではないでしょうか。

3) 表紙のすり替え

だから教会に通ってクリスチヤンになったにもかかわらず、表紙だけをすり替えたような感じになって、中身はそのまま社会正義がテーマであり、人間の愛情や同情がテーマであり、神秘の体験がテーマであり、知識を追求することなどがテーマとしてそのまま留まっているわけです。中身はそのまま持って、表紙だけを神社からキリストに塗り替えただけのことになってしまいます。となると、つまずくようになるしかありません。そのすべてがどこから生まれたのでしょうか。教会に通いながらも、バプテスマのヨハネもつまずくようになりました。その目で世界中の教会を見ますと、とても大変だと見えないでしょうか。それ以前に私たち自分自身をかえりみて、これは大変だと自覚しなければなりません。キリストを正しく知る信仰を自分は持っているのか。

4) Only キリスト、絶対キリスト

キリスト、キリスト、キリストと言いながらも自分自身が絶望的な靈的問題を抱えて、自分の今までのどのような願いが叶ったとしてもその問題の解決には1mmも関係ないということに気づいて Only キリスト、絶対キリストにならないとつまずくようになります。Only キリスト、絶対キリストは何があってもキリストを信じない理由は永遠に消えてなくなり、キリストから離れる理由は宇宙に存在しない、そういうものになるわけです。たとえ私が地獄に行くような過ちを犯したとしてもキリストを離れることはできません。なぜならキリストが分かっているから。でもついいつつまずいてしまうのです。よくよく考えて吟味しましょう。自分は本当に地獄から生まれたものだということを一度でも考えたことがあるでしょうか。もしそうでなければキリストは私たちにいらないのです、本当は。だからキリストがキリストでなくて、自分の願いのためのキリストになっているのです。バプテスマのヨハネがつまずくようになったとなれば、教会に通っていてもいくらでもサタンは操ることができるということなのです。逆に申し上げます

と、神様は今でもさまざまなことを通してそういう自分自身に気づいてもらって、そのような信仰に気づいてもらって、自分の願いはすべて間違いだったんだね。いらないものを求めていたんだねということに気づいてちりあくたという告白をして、Only キリスト、絶対キリストという信仰の上に立つことを神さまは望んでいらっしゃるし、そのように働いていらっしゃるわけです。そのために皆さんにつまずくしかないような状況、そのようなさまざまな事柄を許されることを理解していただきたいと思います。そこで落ち込んで落胆したりしないで。その前に反応する自分自身のいろいろな状態を素直に見て、あつ私、まだ Only、絶対でないんだね。何かにつまずいたり、なんでだろう。何を願っているんだろう。本当にキリストのほかには希望のない絶望的な自分ことを認めてみたことがあるのか。2部礼拝でも申し上げますけれども、本当にイエス様の十字架の前に私は素直に立ったことがあるのか。日曜日にここに来て礼拝を捧げるから礼拝ではありません。このことを普段から感謝して、この感激をもってこの主であるキリストの父なる神を見上げるために集まるところが礼拝なのです。救いの感謝なしでは礼拝は礼拝になりません。救いの感謝とは何でしょうか。皆さん、何の感謝をして礼拝に集うのでしょうか。

5) ピリピ 3:8

ここまでできたものがパウロのようにピリピ 3:8、今まで自分がこだわっていたもの、大事にしていたもの、価値あると思っていたもの、だからそういうことに願いを込めていたわけなのですが、その願いのすべてがちりあくただったと宣言することになります。

6) 恵みと感謝

それで条件や自分の願いが叶うのか叶わないのかなどとは全く関係なく、神様の恵みの上に立ってはかり知れない神の恵み、無条件の愛によって私が救われたことを感謝する人になります。つまずくことなく感謝します。うまくいくから感謝、そうでないからつぶやくということは、異邦人も普通の人もみなやっているとイエス様がおっしゃいました。それは感謝ではありません。普通に考えたときには、つまずくしかない状況の中でもそれがつまずきにならないで、神の恵みのゆえに心からの感謝を失わない、そういう信者です。感謝しない理由はどこにあるのでしょうか。死の影の谷を歩くときでも聖霊が内住して、私は地獄から天国に移されている神の子どもではないでしょうか。それは間違いありません。それは変わりがありません。イエスのいのちが宿っている救われた尊い神の子どもなのです。しかもその聖霊様が死の影の谷の中で、私の頭では到底、理解できないさまざまな状況の中で、私を完璧に導いていらっしゃるので感謝します。その聖霊様がそこで働いて、私の力と関係なく神の力によって証拠を与えられて、ほかの人も生かすことができる証人として私を用いられるようになります。だから感謝なのです。それは状況がどう変わろうが変わりません。キリストにあって私たちに与えられた救いの祝福なのです。状況によってつまずくことはあり得るのですが、ずっと放置していくはいけません。サタンが喜ぶだけです。理屈でいろいろ考えて理解できるようなものではありません。皆さん、本当に私はキリストを正しく知っているのかと問いかけてみてください。キリストでなければ絶対だめなのでしょうか。もしかして神社に行って願いが叶えられるのなら神社のほうが良かったかもしれませんと思っていないでしょうか。つまずかない信仰は、キリストを正しく知る信仰です。

2. キリストで充分な信仰

そして、キリストを正しく知る信者は、そのキリストで充分だという信仰を持つようになります。なので、つまずかない。人が認めてくれるの。親がいるかいないか。親が優しい人間なのか。あるいは暴力を振るう変な親などと私の満足とは関係ありません。私は親の愛情によって人が認めるかどうか、社会的に成功するかどうかによって満足するものではなくて、キリストで充分なのです。そういう信仰だからつまずきません。なぜそのような信仰になれるのでしょうか。キリストがどういう方なのか分かっているからキリストで充分です。

1) 十字架で過去から自由になるに

キリストの十字架で私は過去から完璧に自由になるに充分なのです。イエス様は十字架の上で私たちは生まれてもいらないのに、その私のすべてのことを完了したと宣言されました。だから充分なのです。どんな過去があったのか、どれほど汚い、どれほど変な、あるいは大きな間違いの過去があってもそこから自由

になることに充分なのです。それがイエス様のキリストの十字架なのです。知らない人は合理化するとか変な理屈とか、そういう風に言うかもしれません。なんと言われようと構いません。私は過去から自由なのです。記憶からそれが消えなくても自由なのです。なぜでしょうか。キリストの十字架で充分なのです。キリストの十字架は私のいかなる過去でも全部消して、それが全部土台になるようにする完璧な力です。だからつまずかないのです。自分の過去がトラウマになって心の傷になって、いつでもその状況になればそれが動き出すようなことから自由なのです。心の傷等になる理由もありません。

2) 復活で現実に縛られず勝利するに

そのキリストが復活されました。キリストの復活で現実に縛られないで勝利することに充分なのです。イエス様は復活なさっておっしゃいました。世の終わりまでいつもあなたがたとともにいるよと。今も生きて働いていらっしゃるキリストで、どのような現実でも負けることなく充分勝利することができるのでです。だから充分なのです。状況がどうなるかが私たちの勝敗を分ける要因ではありません。キリストなのかどうかなのです。いかなる状況でも復活なさってすべてを完了して悪魔の頭を踏み碎いて勝利なさった復活のキリストによって勝利することに充分なのです。信じるか信じないかの問題です。

3) 御座(聖霊)で地の果てまでに証人になるに

そのキリストは御座に昇られました。その御座で聖霊を通して弱い私たちを、私たちの教会を地の果てにまで証人に行ることに充分なのです。その証拠は聖書にあるのではないでしょうか。歴史を通してその証拠を私たちは見ているのではないでしょうか。初代教会の人たちは絶対不可能な状況でした。それでも地の果てにまで証人となると約束してその通りになりました。なぜなら御座にいらっしゃるから。キリストが御座にいらっしゃるから充分なのです。

4) 御座の祝福で弱い私でも神の栄光を現すに

そして、その御座の祝福で弱い私でも神様の栄光を現すに充分なのです。言い訳などいりません。私はこれがないから。私にはこれが足りていないから。私の現場の状況こうだから、ああだからといろいろ言い訳をいっぱい言いたいのしようが、だからつまずくわけです。御座の祝福でそのような私でもそこで神の栄光を現すに充分なのです。パウロは刑務所の中で天にある靈的すべての祝福をいただいて、私は幸せなんだ、幸いなんだと告白しています。人によって状況によって環境によって自分自身をいじめることができないように。それはサタンに悪霊に騙されることなのです。キリストが見えないからなのです。御座の祝福で地上のどのような状況でも神の栄光を現すことが充分なのです。

5) 宝のキリストでいかなる困難でも勝利するに

そして、宝のキリストで、キリストが宝なので、いかなる困難でも克服して勝利することに充分なんだ。IIコリント 4:7-9でパウロはこのように告白しています。「私たちは、この宝を土の器の中に入れています。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものではないことが明らかになるためです。私たちは四方八方から苦しめられますが、窮することはありません」。なぜなら宝のキリストのゆえに充分なのです。「途方に暮れますが、行き詰まることはありません。迫害されますが、見捨てられることはできません。倒されますが、滅びません」。どのような状況でも勝利できるできることに充分なのです。騙されないように。自分のレベルで勝手に考えないように。

6) 聖霊の力で不可能な状況でも世界福音化するに

そして、そのキリストは聖霊を送ると約束されました。聖霊の力で不可能な状況でも世界福音化するに充分なんだ。だからイエス様が最後に、それはあなたがたは知らなくていいよ。植民地であり、どんな状況であれ充分だから。Only 聖霊が臨まれると、力を得て、地の果てにまで私の証人となるとおっしゃいました。充分なのです。

7) カルバリ、オリーブ、マルコのタラッパンの契約で

まとめて申し上げますと、十字架のカルバリ山の契約、オリーブ山の神の国の契約、マルコのタラッパンの聖霊の力が働く契約、これで充分なのです。充分なのです。イエス様の十字架と復活と聖霊の働きでど

こか穴があいて足りないところがあれば、それは神様ではありません。それで充分なのです。信じるか信じないかの問題です。だから充分なので、どのような人間でもいかなる状況でもつまずきません。なぜつまずくのでしょうか。充分だと信じてないからです。これがこうなればいいのに、ああなればいいのに。

8) 神のやぐら、神の旅程、神の道しるべ

言葉をえますと、キリストによって信者の私が神のやぐらとなります。そして、神が備えられた旅程を歩むようになり、神の答えである神の道しるべが用意されているので充分なのです。ローマの植民地、刑務所の中でも、死の影の谷を歩いていても、私が神のやぐらなので充分なのです。いくら迫害があり邪魔があり、どのような問題があっても神が用意している旅程があるわけだから充分なのです。神様は絶対やぐらの答えを世界中に用意していらっしゃいます。そちらの方に私たちを導かれるから誰も止められないで、だから充分なのです。クリスチャンなのにいくら時間が経っても、神様ではなくて自分が基準なのです。神の水準ではなくて自分の水準ですべての物事を考えて評価するからつまずくようになるしかありません。皆さんは皆さんではありません。キリストによって買い取られて、神がともにおられる尊い神の子どもなのです。自分のことを勝手に評価して思うことは悪魔の好都合なのです。神様はあなたのことを愛して、あなたは尊いよ、気づいてほしいとおっしゃっているのに私はダメです。親に愛されていないから。親がいないから。孤児院で育ったから。ほかの人には障害を持っているから。頭が悪いから。外見がああだ、こうだ。さまざまことで自分のことをいじめているのです。それは悪魔しわざです。神様はキリストによってあなたは神のやぐらなんだよ。宝のキリストがあなたの内側にいらっしゃるよ。わたしは十字架とともに死んでそのキリストを信じる信仰によって生きる者です。

9) キリストで満足し、信仰と祈りへ

キリストで充分なので、キリストで満足して、それからキリストで満足するから信仰の方に移って、思い煩わないで、心配しないで、人のせいにしないで、ああだこうだとつぶやかないで信じるわけです。その信仰によって祈りの祝福の中に入ることになります。キリストで充分な人は。詩篇 23:1 には、主は私の牧場の羊飼いであり、私には乏しいことがありません。死の影の谷を歩きながらも満足しています。死の影の谷なのか、マンションの暖かい部屋なのかと関係なく、それは私の満足の要素、道具ではありません。キリストが満足なのです。キリストで充分なのです。なので、死の影なのか、ローマの植民地のか、あなたがたは、知らなくてもいいよ。Only 聖霊が臨まれると、力を得て、地の果てにまでイエスの証人となるということを信じるわけです。信じるから使徒 1:14 にある祈りに専念します。祈りに専念するというのは、今までの願い、心配、気にしていたこと等々、全部下ろして祈るだけです。神様に集中するだけです。神のみことばに集中するだけです。ぜひぜひ集中してください。いろいろな考え方などしないで集中してください。日曜日だけでも集中しないといけません。なぜ集中するのでしょうか。集中するとそこに何かの効果が現れるという方程式ではなくて、キリストで充分だから他のことに気が散らないで、自分の思いに走らないでという意味で集中なのです。

そういう意味で結論を申し上げますと、つまずくようになるというのは、キリストを正しく知り、キリストで充分な信仰でなかったということなので、裏返しますと、条件付きの信仰だったわけです。その条件付きの信仰から抜け出すように。イエス様を信じる理由は、ほかの条件は関係ありません。イエス様がキリストだから信じるわけです。イエス様を信じる理由をこの一つに絞るように。イエス様がキリストだからイエス様を信じます。良いことがあるから、信じたら病気が治ったから信じるわけではありません。病気が治らないと信じないです。家庭に平和が戻ってきてから信じる。また戻ってくることを願いつつ信じる。なかなか戻らないとつまずくようになります。戻ったとしても地球はいつも変るので家庭環境がいつも変わるか分かりません。変わるとまたつまずくわけです。それは信仰ではありません。宗教です。イエス様がキリストだから信じる、この理由の他には全部消すように。

そして、聖霊内住、聖霊の導き、聖霊の働きで充分だと告白して、パウロがピリピ 4:6 で告白しているこの告白に進むようにしましょう。「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい」。ここに願い事があるから願いがあるのではないかと思うかもしれません、何も思い煩わないで願いとなると私たちの願いのような願

いではありません。神の願いがその人の願いになります。この祈りに進んでいきましょう。

それから、パウロが I コリント 1 : 30 に「しかし、あなたがたは神によってキリスト・イエスのうちにあります。キリストは、私たちにとって神からの知恵、すなわち、義と聖と贖いになられました」。つまり、キリストが私の義、聖め、私の救い、私の力、キリストが私の誇り、自慢、満足、幸せ、キリストが私の喜びなので、人がどうのこうのと私の喜びとは関係ありません。キリストが私のすべてなのです。誰かに認められるから喜ぶのではなくて、キリストで喜ぶわけです。旦那さんが優しくしてくれるから幸せではなくて、奥さんがちゃんとやってくれるから幸せでもなくて、そうであってもなくても私の幸せはそこにあるものではなくて、キリストが私の幸せなのです。だから幸せと喜びと感謝と満足と力と救いは奪われません。奪われることはありません。皆さんが今まで人に幸せを託していました、環境に幸せを託しているから、コロコロ変わるものにつまずくでしょうけれども、それは最初からの間違いなのです。子どもが幸せでしょうか。子どもが思い通りに行かないとまた幸せは飛んでいくわけです。そういう幸せは幸せでもないし、だまされることだし、サタンが利用するわけです。クリスチャンはキリストを正しく知り、キリストで充分な信仰を持って、条件、状況、環境などにつまずかない信仰を持ち、キリストで充分でキリストが満足であり、キリストで幸せな信者にならないといけません。その時に悪霊が逃げ去り、皆さんのがいらっしゃる現場にいのちの運動、聖書的な伝道運動が起きて現場が変わることを見るようになるでしょう。それがオリーブ山でおっしゃいました皆さんを通してなさろうとしていらっしゃる神の国とその神の国のことなのです。それが滞っているのです。私たちがキリストで満足していないから。私たちが自分の内側で何かのあれでつまずいているので。そこをすっきりと全部解消して、現場に神の国のが現れる主人公として立って、5000 未伝道種族の前で、絶望的な地、日本でも私が変われば神はいのちの運動をなさるんだと証明する証人の信者、証人の教会になりましょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。ここにいらっしゃる兄弟姉妹ひとりひとりがキリストを本当に正しく知ることができるようになります。要塞をもやぶる神の力が働いて、そのはかりごと、思いをとらえてキリストに服従させる働きがなされることをお祈りいたします。それでダビデのように、パウロのように、いかなる条件、状況、環境でもキリストで充分ですとキリストで満足できる信仰に立って、現場でいのちの運動に用いられる信徒になるように、サタンが一番怖がる信者になるようにひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。